



林 声

2019

7 月号



吉備中央町（旧加茂川町）には、岡山藩時代には檜皮（ひわだ）が利用されるなど、藩有林の流れを汲むヒノキ林が存在し、現在も間伐等の手入れを継続してより良い姿で次世代に森林を引き継ごうと頑張っている方々がおられます。その中のお一人、浮森孝雄（うきもり たかお）さんです。（詳細はP 2 に記載）

目 次

大切に育まれてきたおこやまの森・人の技が光る森 （吉備中央町豊岡下「浮森孝雄氏の森林」） ……	2	林産物市況 ……	11
『新たな森林経営管理制度』がスタートしました！…	3	森林・林業施設の紹介 （鏡野町富振興センター） ……	14
生き活き！林務の現場『備前市産業部農政水産課』…	4		
普及指導区の情報（井笠普及指導区） ……	5		
令和元年度「おこやま森林づくり県民税」事業の概要 …	6		
ニューフェイスです！（真庭森林組合 稲田 涼さん）…	7		
伐木作業等の安全対策が強化されます ……	8		
森林研究所だより（令和元年度の主な研究課題）…	9		
技能講習等情報 ……	10		

【ぼっけ〜木になる情報】


Q. 今年度から新たに運用が始まった「林地台帳制度」とは、どのような制度ですか？



おこやま森の大使

大切に育まれてきたおかやまの森
 ✨人の技が光る森✨

吉備中央町(旧加茂川町)
 豊岡下の造林地
 【岡山普及指導区】



一 旧加茂川町の森林について

岡山県のほぼ中央に位置する吉備中央町(旧加茂川町)には、岡山藩の藩有林「加茂山御林」(現加茂山国有林)等があり、木材生産のみならず、檜皮を上納してきた歴史があり、知る人ぞ知る古くからの林業地があります。

また、この地域でも燃料革命までは燃料として薪を山から調達するなど、森林は地域の人々と密接な関わりを持っていました。

今回は、管理されたヒノキ林を所有する豊岡下の浮森孝雄さん(79)に、これまでの森林施業等についてお話を伺いました。

二 浮森孝雄氏の森林について

浮森さんは、約30haの山林を所有しておられ、約25haが人工林(ほとんどがヒノキ)、約5haがマツタケ山です。人工林の樹齢は約55〜70年生です。



浮森孝雄氏の森林位置図

植林は先代であるお父様が、戦時中、中国の禿げ山を見て緑の大切さを実感したことが契機となり、戦後3〜4年してから始められたとのこと、その当時は苗木も作っておられたそうです。浮森さんの山との関わりは、中学時代に大鎌を使って下刈りを手伝ったことから始まり、その後就職してからも、ずっとお父様をサポートして山の手入れを行ってきました。昭和から平成の初期頃までは、無節の優良柱材の価格が高かったため、枝打ちも熱心に行い、木の上部は、初めははしごや縄を使っていましたが、後にはツリーモンキーという枝打ち機により行ったそうです。

最近、ご自分で施業をするとはなく、間伐を主体に森林組合に頼んでいらっしゃいます。間伐材を搬出するに当たって森林作業道を整備し、路網密度は約200m/haです。



所有森林でお話くださる浮森氏

また、所有林の中の一際立派なヒノキ林で檜皮生産が現在も行われ、京都の神社で使われているとのこと。

三 今後について

昭和40年代には県の林業改良普及員加茂川駐在所があつて、その指導員と密なおつきあいがあつた、とおっしゃる浮森さんは、現在の状況について、「林業(木材)で収益を上げるような時代ではな

い。公益的機能の發揮に貢献しているだけ。」と少々寂しそうに話してくださいました。しかし、「最近でも土地を買って熱心に植林する人もいらっしゃるようだから、木造建築の基準(尺や間といった寸法のサイズ)を現代に合ったものに変更するなどしないといけないのでは。」といった前向きなことも話してくださいました。

四 最後に

藩有林(御林)の流れを汲む林業地は、時代の変化に揉まれながらも脈々と息づいており、以前のような森林所有者との密な関わり合いを持つことで、森林を次世代により良い姿で引き継いでいっていただけるよう、日々努めています。

(岡山普及指導区 奥村 祐子)

《檜皮とは》

- ・屋根葺用にヒノキから採取した樹皮で、高齢の立木から、およそ8〜10年の間隔で採取が可能
- ・国宝の重要文化財等の屋根修復に欠かせない材料で、伝統的な技法で檜皮を採取する原皮師(もとかわし)は減少している

『新たな森林経営管理制度』がスタートしました！

一 はじめに

森林経営管理法が平成31年4月1日に施行され、市町村が中心の役割を果たして森林の適正な経営管理を進める新たな森林経営管理制度がスタートしました。

二 森林経営管理法の概要

- ① 森林所有者に適切な森林の経営管理を促すため責務を明確化した上で、
- ② 森林所有者が経営管理を実行できない場合には、市町村が経営管理の委託を受け、
- ③ 林業経営に適した森林は、意欲と能力のある林業経営体に再委託することを基本としています。
- ④ また、再委託できない箇所（経営に適さない森林）や再委託が決まるまでの間の森林については、市町村が公的管理を行うこととされています。

三 森林経営管理制度の流れ

この制度においてまず実施され

るのは、市町村による森林所有者の意向確認です。市町村は、経営管理が行われていない森林の所有者に対し、今後の経営管理についての意向を確認し、森林所有者から市町村に経営管理の委託を希望する旨の意向が表明された場合は、経営管理権を設定し、林業経営に適した森林か否かの判別を行うこととされています。

四 県による市町村等への支援

県では、この制度が円滑に推進されるよう、今年度から県に譲与される森林環境譲与税を活用し、市町村等への支援を総合的に実施します。

(1) 市町村推進体制の支援

県と市町村との連携推進会議を常設して年4回開催し、課題解決に向けた検討や情報交換等を行うとともに、市町村職員や市町村が雇用するアドバイザー等を対象に、本制度を推進する上で必要となる知識等についての研修を年4回行います。また、(公社)おかやまの森整備公社に、新たに「森林経営管理推進支援チーム」を設置し、林業技術者等の人材バンクやアドバイス・相談対応、森整備公社の

技術職員による森林の情報把握・管理方法等の技術指導を実施します。

(2) 森林管理データの整備・活用

森林所有者への意向調査や市町村による林業経営の判断等を支援するため、市町村と共有している森林クラウドの機能を充実します。

(3) 林業経営体の育成

森林経営管理実施権の設定を希望する林業経営体を年2回公募・公表（8月公募・10月公表、2月公募・4月公表）することとし、これに係る要領を県林政課ホームページで公開しております。また、これらの林業経営体の経営者を対象とした研修を年4回実施します。

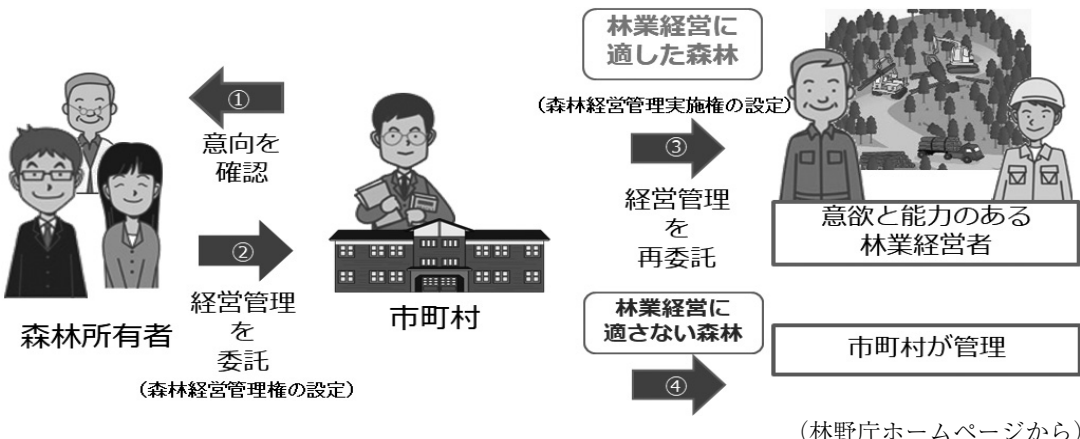
今後、県森林研究所（勝央町）内に林業技術研修施設の整備等を計画しており、市町村職員や林業従事者等の人材育成研修環境の充実を図ることとしています。

五 おわりに

県では、連携推進会議等を通じて、市町村や関係団体等と十分に連携を図り、新たな森林経営管理制度の適切かつ円滑な実施を支援し、林業の成長産業化と森林の適

切な管理を一体的に進めていくこととしています。

(林政課 普及指導班)



**生き
活き！ 林務の現場**
備前市産業部農政水産課
〔東備普及指導区〕

一 はじめに

備前市は、岡山県の東南端の兵庫県との県境に位置し、南部は、瀬戸内海に面し、西部は平野部が広がるなど変化に富んだ地形を有しています。

また、総面積の約82%を森林が占めており、その内の19%にあたる4千haが人工林となっています。中でも早くからスギ・ヒノキの人工造林が進められてきた北部では、現在、間伐等の森林施業が機関造林者等により行われており、備前市森林整備計画に基づいた森林の実行監理が行われています。

二 農政水産課の紹介

農政水産課は、森林から海に関する業務を課長、農政水産係（4名）、農業委員会（1名、兼務3名）、里海・里山係（2名）、臨時職員（1名）で担当されています。

林務担当が所属するのは農政水産係で、この係は「森林」だけでなく、「農業」「鳥獣」「水産」「家畜

など多岐にわたる業務を担当されています。

ア「森林」に関する業務

森林整備計画、生活環境保全林の管理、緑化事業、各種森林に係る届け出の受付等が行われています。また、今年度から森林環境譲与税が市町村へ交付されるとともに、本格的に森林経営管理制度がスタートしましたが、昨年度から林地台帳のデータを活用して対象森林（モデル地区）の拾い出しを行うなど、意向調査の実施に向け準備が着々と進められています。

イ「農業」に関する業務

人・農地プランの策定や経営所得安定対策、日本型直接支払制度を活用し、農業者に補助金を交付する事務が行われています。

ウ「鳥獣」に関する業務

有害鳥獣による被害対策として防護柵設置の推進、駆除班による捕獲促進等の業務が行われています。

エ「水産」に関する業務

魚介類の産卵、幼稚魚の育成場所となるアマモ場（海草）の再生活動や市の魚「さわら」の育成、主幹漁業となる牡蠣養殖の持続的な生産体制の構築など里海づくりによる豊かな海の再生に取り組まれています。

毎年2月には「かきまつり」が開催されていますので、是非、美味しい牡蠣を食べにお越しになられてはいかがでしょうか。

オ「家畜」関係業務

口蹄疫や鳥インフルなどの防疫について県の研修を受講し、万一の発生に備えられています。

カ その他

下段の写真は、備前市里海・里山ブランド「みんなでびぜん」のブランド認定商品8品です。

『備前市里海・里山ブランド推進協議会 with ICM（事務局・農政水産課）（平成29年2月6日設立）』が、豊かな自然の恩恵を次の世代に引き継いでいくために、持続可能な取組や自然に配慮した事業によって育まれる産品や商品などをブランド認定し推奨しています。是非、事務局のホームページをご覧ください。備前市の特産品をご賞味ください。

三 林務担当紹介

取材を受けて下さった林務担当の槇野康子主査から『備前市は、北部の人工林から瀬戸内海に面した広葉樹林まで多様な森林を管理しています。今回、新たな森林経営管理制度を担当するにあたり、

不安もありますが、関係機関とも連携を図りながら円滑に進めていきます。』というお言葉をいただきました。

四 最後に

当普及指導区では、本年4月からスタートした森林経営管理制度の推進において、情報交換や意向調査等の円滑な実施に向け、様々な支援をしていきたいと考えています。

（東備普及指導区 木村 正三）



普及指導区の情報
竹破碎機の貸出開始
 — 笠岡市 —
 【井笠普及指導区】

一 はじめに

近年、整備されずに放置された竹林が、周囲の森林へ侵入し、拡大を続けており、大きな問題となっています。放置竹林は、農林被害をもたらすイノシシ等の隠れ場所や餌場にもなることから、対策にのりだした笠岡市の取り組みについて紹介します。

二 竹破碎機の導入

竹林の整備は、竹をせっかく伐採しても、そのまま野積みをして腐らせるのには相当の時間がかかり、集積場所の確保も必要のため、なかなか進まないのが現状でした。

そこで、笠岡市は、平成30年度に市町村提案型森づくり事業を活用して、竹の破碎機を導入し、笠岡市内の竹林を整備する個人、団体に貸し出しを行う事業を行っています。

竹破碎機は、竹の粉碎を少ないスペースで効率的に処理ができる

うえ、粉碎したチップは土壤改良材やマルチ材として活用できます。竹破碎機の仕様は、自走式で軽トラックに積載可能、最大処理径は128mm、送り速度を0〜22m/minまで可変可能で、用途にあったチップサイズを生産できる優れたものです。



笠岡市が導入した竹破碎機

三 利用状況

笠岡市は今年1月から貸出を開始していますが、貸出希望者は多く、順番待ちになることもありま

す。実際に破碎機を利用された方の声をきくと、「軽トラックで運べて便利。操作も簡単で使い勝手が良い。竹で荒れていた山がきれいに

なっとうれしい。」「コンパクトな割に処理能力があり、破碎後のチップが細かいので、堆肥として利用できて、大変ありがたい、今後も有効利用させてもらおう。」と高評価です。



竹破碎機の使用状況

また、破碎機を稼働させていると、近隣の方から「うちもやってみようか。」とか「地区で借りてみんなでやろう。」といった声があがり、地域で取り組む竹林整備の輪が、少しずつですが広がってきています。

四 おわりに

放置竹林が問題視される一方で、竹は資源としても多くの可能性を

秘めており、適切に活用すればマルチ材や土壤改良材として農業に利用できるなど、幅広い用途が見込まれます。

笠岡市は、今後も竹破碎機の貸出をPRして、竹の有効活用を図りながら、放置竹林の解消に努めていくこととしています。

井笠普及指導区としては、こうした取り組みが今後も継続されるよう、支援していきたいと思えます。



綺麗になった整備後の竹林

◆竹破碎機の貸出については、笠岡市役所農政水産課までお問い合わせください。

電話0865-69-2145
 (井笠普及指導区 山下 雅子)

令和元年度「おかやま森づくり県民税」事業の概要

県では、県民の貴重な財産である岡山の森林をより良い姿で次の世代に引き継いでいくため、平成16年度から「おかやま森づくり県民税」を活用した森林保全事業を実施しています。

令和元年度は、613,920千円を活用して主に次の事業に取り組むこととしています。

1 水源の涵養^{かん}、県土保全などの森林の持つ公益的機能を高める森づくり（385,115千円）

(1) 健全な人工林の整備（239,600千円）

緊急的な間伐等の促進、作業道の整備・補修等、スギ間伐材の搬出促進、林業被害をもたらすシカの捕獲対策及び花粉発生源対策等を支援します。

(2) 多様な森づくりと快適な森林環境の創出（145,515千円）

荒廃した里山林の整備、ナラ枯れ被害木の重点的な駆除及び地域の実情や課題に対応した市町村による森林保全の取組を支援します。

2 森林整備を推進するための担い手の確保・育成と木材の利用促進（185,435千円）

(1) 力強い担い手の確保・育成（35,115千円）

新たな林業就業者確保に向けた取組、新規就業者の職場内研修、林業の専門的な知識や技術を有する優れた人材の育成及び安全装備・器具等の導入を支援します。

(2) 木材の利用促進（150,320千円）

公共建築物等の設計・木造・木質化等、県産森林認証材を使用した木造住宅の新築・改修、県産材製品の販路拡大、F M認証等森林認証の取得促進、東京2020五輪大会選手村ビレッジプラザへの県産材の活用等を支援します。

3 森林・林業に関する各種情報の提供と森づくり活動の推進（43,370千円）

(1) 県民への情報提供（26,877千円）

学校等で使用する副読本の作成や身近に木と触れあえる空間を創出します。

(2) 県民参加による森づくり活動の推進（16,493千円）

おかやま森づくりサポートセンターの活動支援や森づくり活動に取り組む企業等への二酸化炭素森林吸収評価認証書の交付、都市と山村との交流活動の支援、みどりの少年隊が交流する「みどりの大会」を開催します。



健全な人工林へ向けての間伐実施



林業被害をもたらすシカの捕獲を強化



ナラ枯れ被害木の伐倒駆除



就業相談会の開催



県産森林認証材を使用した木造住宅への支援



木と触れあえる空間の創出

各事業の概要については、林政課ホームページに掲載していますのでご覧ください。

※岡山県林政課HP「おかやま森づくり県民税」URL：<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-21757.html>
（林政課普及指導班）

ニューフェイスです

★ 真庭森林組合

稲田 涼さん (38歳)

【真庭普及指導区】

真庭森林組合の稲田涼さんをご紹介します。

稲田さんは、平成29年5月から真庭森林組合のフォレストアスターとして湯原支所で勤務されています。今年、「緑の雇用」事業の林業作業士（FW）研修の2年目を受講されています。

一 経歴



真庭森林組合 稲田 涼さん

稲田さんは、真庭市栗谷出身で、高校生まで真庭市内で過ごし、卒業後は岡山市内の重機メーカーに就職されました。その後、車好きでもあったことから岡山市内の自動車工場で整備士として30歳まで

勤務されていたそうです。

ゆくゆくは、真庭で働きたいと考えていて、長男の保育園入園を契機に真庭に戻り、これまでの経験を活かし自動車整備士として6年間勤務されたそうです。

二 就職のきっかけ

なぜ森林組合に就職されたのかをお聞きしたところ、勤務していた真庭市内の整備工場には林業関係の方も多数来店され、林業について話をする機会があったそうです。林業に従事する人も少なくなっているという話もあり、自分も地元のため何かできないかと考えていたそうです。また、叔父に当たる稲田清夫さんが当支所のフォレストアスターであったことも就業の大きなきっかけになったそうです。

三 仕事の内容

今回伺った現場は約15畝の搬出間伐の事業地で、稲田さん含めて湯原班5名のチームで森林作業道開設から木材運搬が行われています。稲田さんは、伐倒作業とプロセッサによる造材を行われていました。最近、プロセッサによる造材を任されるようになったそうです。

就業当初は、同班の最年長にな

る三崎さんから伐倒の基本を教わり、難しい伐倒の時はアドバイスを受けながら行っていたそうです。自分の作業や行動を三崎さんが心配して見ていたと、思い出されていました。



伐倒作業中の稲田さん

四 これからの抱負

「プロセッサによる造材作業も任されるようになってきたが、初岡班長から、間伐後の残存木の配置などアドバイスを受けている。山作りを考えながら作業を行いたい。また、今後は作業道の開設などにも挑戦し、作業全般を任される技術者になりたい。」と話されていました。

五 上司からひと言

最後に、初岡班長から話を伺いましたが、開口一番、「若い稲田君

が入ってきてくれて本当に感謝している。」という言葉でした。「今

は「緑の雇用」研修を通じて、基礎を十分習得してきてもらいたい、将来は、作業道の開設や作業の計画などを立てられる技術者となれるよう育てていきたい。」と述べられていました。



向かって左から三崎さん、初岡班長、稲田涼さん、稲田清夫さん、遠藤さん

六 終わりに

取材を通して、湯原班のチームワークの良さと、稲田さんを大切に育てていこうという思いを大変強く感じました。また、皆さんと搬出コスト、労働災害、森林病害虫などの貴重な話ができ、とても有意義な時間となりました、ありがとうございました。

(真庭普及指導区 木村 淳二)

労働安全衛生規則の一部が改正され、伐木作業等の安全対策が強化されます！

厚生労働省では、伐木作業等における労働災害を防止するために、労働安全衛生規則の一部を改正し、伐木作業等における安全対策が強化されます。林業、土木工事業や造園工事業など、業種にかかわらず、伐木作業等を行うすべての業種が対象になります。

一 改正の背景

林業における労働災害による死亡者数は年間40人前後で推移しており、平成23年以降改善がみられず、死亡災害の約6割はチェーンソーによる伐木作業時に発生しています。また、休業4日以上の死傷者の起因物では、立木等が約3割、チェーンソーが約2割と多数を占めています。

厚生労働省では、「伐木等作業における安全対策のあり方に関する検討会報告書」（平成30年3月6日公表）を踏まえ、労働安全規則の一部を改正しました。

二 主な改正内容

1 特別教育の内容の追加

チェーンソーによる伐木等の業務に関する特別教育が統合され、併せて、安全衛生特別教育規程が見直され、新たに「造材の方法」及び「下肢の切創防止用防護衣等の着用」が追加されました。

このことに伴い、これまでに当該特別教育を受けた労働者が、改正による新たな特別教育の適用日（令和2年8月1日）以後にチェーンソーによる伐木等の業務を行う場合は、業務を行う前までに、事業者は、労働者に必要な補講を実施する、もしくは受講させる必要があります。

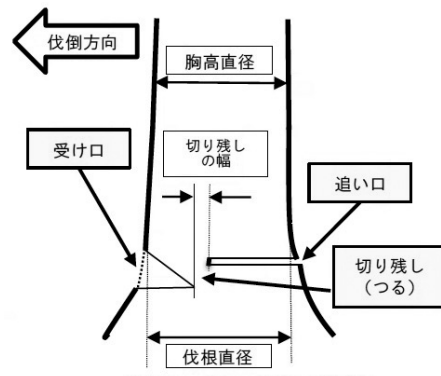


2 伐木作業等における危険の防止

①受け口を作るべき立木の対象を胸高直径40cm以上のものから20cm以上のものへと範囲を拡大されました。

②受け口を作るべき作業の場合（胸高直径20cm以上のもの）、適当な深

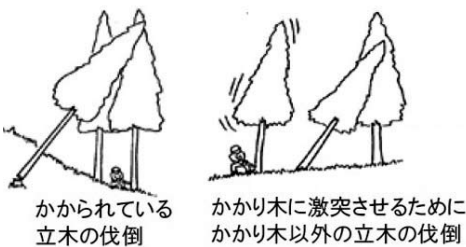
さの「追い口」と適当な幅の「切り残し（つる）」を確保することが新たに義務付けられました。



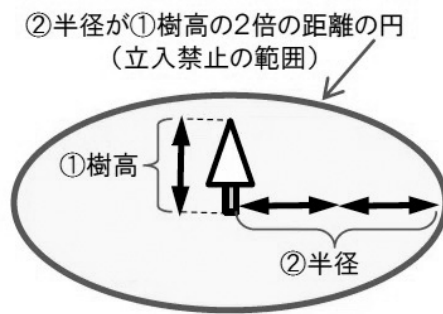
受け口、追い口等の関係図

③事業者に対して、かかり木の速やかな処理を義務づけるとともに、事業者及び労働者に対して、かかり木の処理における禁止事項を規定します。

禁止事項



④事業者は、立木の高さの2倍に相当する距離を半径とする円形の内側には、当該立木の伐倒の作業に従事する労働者以外の労働者の立ち入りを禁止します。



立入禁止の範囲

⑤事業者は、チェーンソーによる伐木作業等を行う労働者に下肢の切創防止用保護衣を着用させること、また、当該労働者に、当該切創防止用保護衣を着用することを義務付けます。

三 施行期日

施行日は令和元年8月1日ですが、特別教育の部分は令和2年8月1日です。

（普及推進課 林業普及推進班）



森林研究所だより（令和元年度の主な研究課題）



森林研究所では、活力ある本県林業・木材産業の実現を目指すため、長期的な展望に立った試験研究を行っています。研究課題については、森林・林業・木材関係者などから広く公募するなど、地域の要請に沿った実用的な試験研究に取り組んでいます。

主な試験研究課題一覧

区 分	課 題 名	年 度
育 林 育 種	少花粉スギ等の生育状況調査	H30～R 2
	⑨ 高齢級人工林の資源量推定に関する研究	R元～R 3
森 林 保 護	シカ被害軽減に向けた防除技術の研究	H29～R元
	ナラ類集団枯損についての調査研究	R元～R 3
特 用 林 産	菌根性きのこのコンテナ感染苗育成技術の開発	H29～R元
	岡山甘栗の栽培技術の確立	H28～R 2
計	林業研究室 6 課題	
材質特性の解明	軸組耐力壁用途としての県産ヒノキCLTの性能評価	H29～R元
加 工 技 術 の 開 発 ・ 改 良	生産現場に適応した岡山県産木質防火材料の製造技術の開発	H29～R元
	乾燥木材の生産・利用段階等の実態解明と問題点の検討	H29～R元
	⑨ 岡山県産材による熱圧処理技術開発	R元～R 3
	⑨ 香りを評価指標とするヒノキ材人工乾燥条件の検討	R元～R 3
計	木材加工研究室 5 課題	
合 計	11課題	



栽培マニュアルの作成

【岡山甘栗】の栽培技術の確立
 当研究所で育成した「岡山甘栗」は、従来の日本栗に比べ、甘みが強く、渋皮離れがよいことから、新たな特産品として期待されているところですが、この「岡山甘栗」の栽培技術を確認するため、品種特性、整枝せんだ作業や病害虫防除の方法、栽培層などを紹介した「岡山甘栗栽培マニュアル（初版）」を今年3月に作成し、県のホームページに掲載するなど、生産者の技術向上を図っています。
 また、高畝方式による水田跡地への園地造成や収穫器具の有効性を明らかにするなど、生産振興に努めたところ、収穫量は年々増加しており、今後も、品質をより一層高めるための栽培技術や管理方法について、検討を加えることにしております。

主な試験研究の概要



内層に空隙のあるCLT
(試験用に穴を空けている)

【軸組耐力壁用途としての県産ヒノキCLTの性能評価】
 CLTについては、大規模木造建築物の構造部材に利用されるなど、新たな木材の用途として期待が高まっています。
 また、今後、一般住宅の構造部材である軸組耐力壁への活用を広めるためにも、小径木から製材した板を使用し、単価の安い部材でCLTを製造するなど、一層の低コスト化を図る必要があります。
 小径木から板を製材すると角が落ちた丸身を持った板ができますが、これまでに部材として強度的には問題がないことがわかっていきます。
 この丸身を持った板を貼り合わせた集成板には空隙が生じることから、これをCLTの内層に使用した場合の性能評価を行うなど、低コストのヒノキCLTの開発に向けた研究に取り組みます。

技能講習会の開催 (8月～9月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名 称	会場	日 程	申込・問合せ先
小型移動式クレーン運転	岡山	9月12、13日	一般社団法人 岡山労働基準協会 TEL (086) 225-3571
玉掛け	岡山	8月1、2日、9月5、6日	
フォークリフト運転	岡山	8月16日、9月4日	
伐木 (特別教育)	新見	8月27、28日	
刈払 (安全衛生教育)	和気	9月25日	



緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助
治山・林道の調査、測量、設計、積算
森林整備・森林公園の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711
津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360

木を通して環境保全に貢献しています



公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 森産業株式会社
総発売元

岡山営業所 岡山市北区辰巳 46-104
TEL 岡山(086)805-7033(代)



「緑の募金」ご協力をお願いします

募金期間

春のみどりの月間
4月1日～5月31日

秋のみどりの月間
10月1日～10月31日

緑の募金でふせごう地球温暖化

口座振込は
こちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町 1-8 TEL・FAX (086) 221-9511



林産物市況



木 材 (6月19日)

単位：千円/㎡

樹種	長さ	径 級	直 材	小 曲 り	樹種	長さ	径 級	直 材	小 曲 り
杉	3 m	14~16	10.5	—	檜	3 m	14~16	19.5	16
		18~20	10.5	—			18~20	17	16
		22~28	10	—			22上	15.5	15
	4 m	18~22	10	—		4 m	14~18	18.5	17
		24~28	10	—			20~22	16	13
	6 m	16~18	13	—			24~28	15.5	13
松	3 m	18~22	10	8	6 m	16	25	18	
	4 m	18~22	10	8		18~20	30	20	

・出荷材積 約2,100㎡

(共販所より概況)

杉概況：

前回同様、並材は値動き無く横這い。
元木の良材は品薄なため、買い気良く強含みで取引された。

【3 m】

柱 材 保合い 中目材 保合い
中目材 保合い 元 木 強気配

檜概況：

並材の構造材に買い気がみられ、強含みで推移。
元木は時期的に品傷みを懸念し、買い控えの様子が続いている。

【3 m】

柱 材 保合い 柱 材 強気配
中目材 弱気配 中目材 弱保合
元 木 弱 気 元 木 弱保合

【4 m】

松概況：

全般に弱気。時期的に需要少なく弱気。


資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値。

製 材 (6月)

樹 種	寸 法	等級	区分	安 値 ~ 高 値 (円/㎡)
ス ギ	正角 3 m 10.5cm角	特等	K	53,000 (直送) ~ 58,000 (市場)
	正角 3 m 12cm角	特等	K	53,000 (直送) ~ 58,000 (市場)
ヒノキ	正角 3 m 10.5cm角	特等	K	65,000~68,000 (無背割)
	正角 3 m 12cm角	特等	K	60,000~65,000
	正角 4 m 10.5cm角	特等	K	65,000~70,000
	正角 4 m 12cm角	特等	K	63,000~65,000
マ ツ	平角 4 m 10.5~12cm×15~18cm	一等	K	75,000
米マツ	正角 3 m、4 m 10.5cm角	特等	G	58,000~60,000
	平角 3 m、4 m 10.5×15~21cm	特等	G	62,000~
北洋アカマツ	タルキ 4 m 3.8cm角	特等	K	70,000~75,000
ホワイトウッド	間柱 3 m 2.7cm×10.5cm	特等	K	60,000~

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。

注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。



緑あふれる環境づくり

株式会社 山都屋

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
 TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142
<http://www.yamatoya-net.com>
 大阪営業所 津山営業所 水島営業所

おかやまの木で家づくり支援事業

✓助成金額：最大24万円/戸
 ✓助成対象者：県内において住宅を新築または改修される施工業者（大工、工務店等）

詳細は
 コチラ 

<http://www.kaiteki-kinoie.or.jp/subsidy.html>

一般社団法人 **岡山県木材組合連合会**
 〒700-0902 岡山市北区錦町1-8(岡山県木材会館内)
 TEL(086)231-6677 FAX(086)232-7549

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット	間伐材利用植生マット	間伐材利用生分解型植生マット	間伐材利用生分解型植生シート	間伐材利用植生シート
グリーンフォーム 切土軟岩用	森樹郎マット 切土土砂用	森樹郎マット21 切土土砂用	張りウッド 盛土用	ハリシバモック 盛土用

「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目
 間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」

太陽と緑の国づくり
Nikon 日本植生株式会社
<http://www.nihon-shokusei.co.jp/>
 津山支店 / 津山市高尾 573-1 TEL (0868) 28-0256
 岡山事務所 / 岡山市北区芳賀 5325 TEL (086) 294-1000

「もしも」に備えて・・・森林保険があります！

FOREST INSURANCE

森林保険

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
 加入期間は？ 1年単位で何年でも！
 保険金がでるのは？
 火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。
 岡山県では過去5年間で約2千万円の保険料が支払われました。

ご契約のモデルケース (1ha あたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年 保険期間…5年 保険金額…最大188万円 一括払いだと 27,444円 (5年間計)	樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年 保険期間…5年 保険金額…最大299万円 一括払いだと 43,325円 (5年間計)
---	--

1ヶ月あたり 約460円 → **わずかおむすび 4個分**

1ヶ月あたり 約720円 → **わずかラーメン 1杯分**

○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。
 ○条件によって契約金額が変わってきます。

○お申し込み、お問い合わせはお近くの森林組合まで。

ほつけー木になる情報

A. 木材価格の低迷、森林所有者の世代交代等により、森林経営意欲が低下している中で、森林所有者の所在が不明な森林や林地の境界が不明な森林が増加してきています。

このため、市町村が森林の土地の所有者や林地の境界に関する情報などを整備・公表する林地台帳制度が創設され、平成31年度から運用が開始されました。

〈林地台帳の作成主体〉

市町村

〈林地台帳の記載事項〉

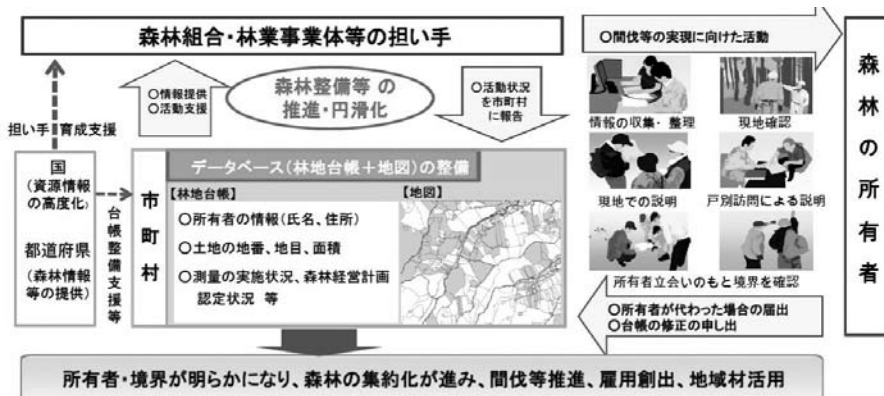
- ・所有者の情報（氏名・住所）
- ・土地の地番、地目、面積
- ・測量の実施状況、森林経営計画の認定状況等

〈台帳の公表（閲覧）〉

森林所有者や境界等の情報を一元的にとりまとめ、台帳情報の一部を公表します。（個人情報上の氏名・住所は除いて公表する。）

〈台帳の情報提供〉

森林組合や林業事業体等の森林整備の担い手には、林地台帳の情報を提供し、施業の集約化や適切な森林整備の推進を図ります。



事務局からのお知らせ

◎会員及び投稿募集しています

事務局では、会員の方から森林・林業に関する質問や疑問、イベント情報等、身近な話題の投稿をお持ちしております。

また、新規会員も継続して募集しております。

【問い合わせ・送付先】

〒700-8570

岡山市北区内山下2-4-6

岡山県庁林政課内

電話086-226-7451

または

〒717-0013

真庭市勝山1884-2

森林研究所 木材加工研究室内

電話0867-44-3367

編集後記

●萌黄色から緑を深めていく山々や田植えを終えた田圃の緑色が力強くなるなど、夏を迎える準備は整ってきているようです。（〇）

◆早いもので、平成30年7月の豪雨災害から一年が経ちました。

復旧作業が進んでいます。あの記憶と経験はいつまでも忘れず、後世に伝えていきたいです。（S）

安全・人と自然・調和

造林木を野生動物の食害から守る

- 〔野生獣類忌避剤〕 コニファー水和剤
- 〔幼令樹保護カバー〕 くわんたい
- 〔樹皮食い防止に〕 バークガード
- 〔野生草食獣食害防止〕 防獣ネット
- 〔クズ専用除草剤〕 ザイトロン・ザイトロンフレノック・ケイピンエース
- 〔樹幹注入剤〕 マッケンジー注入剤

（お問い合わせ申し込みは県森連・森林組合へ）

販売元：日植アグリ株式会社
TEL：086-292-5525

大同商事(株)大阪営業所
TEL：06-6231-2819

林声

令和元年七月一日（第四六六号）
（隔月一日発行）

編集 岡山県林政課内 岡山県林業改良普及協会
発行 岡山市北区内山下二一四一六
〒700-8570



外 観

「鏡野町富振興センター」
本センターは、鏡野町が富地域の振興及び防災の拠点となる施設として整備したもので、4月25日に落成式が開催されました。
建物の特色としては、スギ、ヒノキの構造用集成材を使用した木造平屋建てで、事務室等の天井を梁の見える仕上げとし、会議室壁面の内装にはヒノキの無垢板を用いるなど、使用する木材の全てを岡山県産材とし、そのほとんどが鏡野町産となっています。
地域材の良さを感じてもらい、「木を使う」ことへの意識を醸成することも、この施設の役割であると町では考えています。

森林・林業施設等の紹介

さらに、屋根を片流れにすることで特徴的な外観となっており、誰もが安心して集える施設として、地域振興の核を担うことを期待しています。

木材使用量（岡山県産材100%）

105立法

うち鏡野町産材使用量 98立法


（津山普及指導区）



ヒノキの無垢板で装飾した大会議室



梁の見える仕上げとした事務室



森林保険

『森林保険』

岡山県森林組合連合会 **JForest**


「大事な資産を災害リスクから守ります」


加入例：間伐後加入（3年30%）
ヒノキ 0.1ha 30～50年生

保険料 832円～ 1,164円

保険金額 95,400円～135,000円（全損の場合）

山林復旧の助けとなりますので加入をご検討ください。





平成30年豪雨被害の様子



CT-500C

GP-532
小型ハイパワープロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



shindaiwa

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255

<http://www.mitsuyoshi.com/>



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。